

## 講演 2

# 中国農産物市場と貿易の展望

中国国務院発展研究センター 市場経済研究所

副所長 王 微 氏

藤本学長、本日、お越しの皆さん、こんにちは。私は中国の国務院の発展研究センターから参りました。中国国務院の発展研究センターというのは、中国の国務院直属の政策研究機関であります。われわれは、中国の経済と社会発展の長期的・戦略的・全体的・マクロ的な問題について研究調査を行います。それから関連の体制改革、政策措置、発展計画を政策・提案をするのがわれわれの仕事です。私がいる市場経済研究所は、主に中国国内市場の発展、消費、商業、物流、サービス業の発展などについて研究している部門であります。

まず、私の話をする前に、今回お招きをいただきました甲斐先生、それから中村学園大学流通科学研究所に対して感謝を申し上げたいと思います。何回か日本に来ましたが、福岡は初めてです。昨日、甲斐教授のご案内で福岡の直売所、食肉市場、にじ農協の施設を見学させていただきました。中国の農産物の市場、農業の発展に関しては、非常にまだ日本から勉強するところがたくさんあるという感想をもちました。これからもしっかりと勉強をして参考にしたいと思っています。

中国は人口の多い国であり、世界的にも重要な農産物の生産大国と消費大国でもあります。農産物の市場と貿易の発展は中国の経済成長と都市、農村住民の生活水準の向上にとっても極めて重要なことです。農業の現代化と中国の市場発展、市場経済の発展のレベルにとっても、非常に重要な意義と、今後役に立つところがあります。

今から中国農産物の市場と貿易の発展の主な

特徴についてお話しさせていただきます。

まず、中国の農産物市場というのは中国の市場化改革の先行分野であって、市場化レベルがわりと高いところでもあります。1978年以降、中国の改革開放はまず農村地域で展開されました。実際、家庭生産の請負責任制度を特徴とした農業生産方式が実施され、整備されてきました。もう中国では計画的な経済もとの統一仕入れや統一販売の体制は廃止されてきて、基本的に農産物の市場というのは、市場メカニズムの枠組みの中で形成されています。

**DRC**

DEVELOPMENT RESEARCH CENTER OF THE STATE COUNCIL

### 農産物市場は改革の先行分野で 市場メカニズムは主導的な役割を果たす 1978年以降三種類の価格設定形式の割合の変化 (%)

類別	価格設定形式	1978	1988	1992	1997	2006
社会消費財の 小売売上高(総額) (Social retail goods)	政府指定価格	97.0	47.0	5.9	5.5	2.8
	政府指導価格	0.0	1.9	1.1	1.3	1.9
	市場(調節)価格	3.0	34.0	93.0	93.2	95.3
農産物の買い 上げ総額	政府指定価格	92.2	37.0	12.5	16.1	1.2
	政府指導価格	2.2	23.0	5.7	3.4	1.7
	市場(調節)価格	5.6	40.0	81.8	80.5	97.1
生産財の売上 高(総額)	政府指定価格	100.0	60.0	18.7	13.6	5.6
	政府指導価格	0.0	0.0	7.5	4.8	2.3
	市場(調節)価格	0.0	40.0	73.8	81.6	92.1

ご覧の通り、実は中国において、一部の小麦粉、コメ以外、少数品目を除いてほとんどの農産物の価格は市場価格で決まっており、小麦粉とコメだけは、政府は現在でも最低購入価格を決定して、農村や農民から購入しています。

中国農産物の生産・販売のこの大国の地位というのは、ますますはっきりと表れてきていますけれども、農産物の市場自体の規模も非常に安定的に拡大しています。改革開放して30年になりますが、農産物の生産能力は全面的に拡大

しました。生産高も安定的に成長しておりますし、一部の農産物の生産高は、すでに世界のトップレベルになっています。



### 農産物の生産・消費は安定的に成長

1978-2010年中国主要な農産物の生産量

年次	食糧	棉花	榨油原料	茶の葉	野菜	果物	水産物	肉類
1978	30476.5	216.7	521.8	26.8		657.0	465.4	
1980	32055.5	270.7	769.1	30.4		679.3	449.7	
1985	37910.8	414.7	1578.4	43.2		1163.9	705.2	
1990	44624.3	450.8	1613.2	54.0		1874.4	1237.0	
1995	46661.8	476.8	2250.3	58.9	25726.7	4214.6	2517.2	4584.0
2000	46217.5	441.7	2954.8	68.3	44467.9	6225.1	3706.2	6013.9
2001	45263.7	532.4	2864.9	70.2	48422.4	6658.0	3795.9	6105.8
2002	45705.8	491.6	2897.2	74.5	52860.6	6952.0	3954.9	6234.3
2003	43069.5	486.0	2811.0	76.8	54032.3	14517.4	4077.0	6443.3
2004	46946.9	632.4	3065.9	83.5	55064.7	15340.9	4246.6	6608.7
2005	48402.2	571.4	3077.1	93.5	56451.5	16120.1	4419.9	6938.9
2006	49804.2	753.3	2840.3	102.8	54004.0	17102.0	4583.6	7089.0
2007	50160.3	762.4	2568.7	116.5	56452.0	18136.3	4747.5	6865.7
2008	52870.9	749.2	2952.8	125.8	59240.3	19220.2	4895.6	7278.7
2009	53082.1	637.7	3154.3	135.9	61823.8	20395.5	5116.4	7649.7
2010	54648.0	696.1	3230.1	147.5	65099.4	21401.4	5373.0	7925.8

ご覧の通り、これは2010年の中国の一部農産物の生産高ですが、ここにあるように、例えばお茶などの主要な農産物の生産高は、すでに世界トップレベル、はっきり言ってナンバーワンの生産高になっています。

農業生産の拡大に伴いまして、中国農産物の市場はすでに昔の供給不足、あるいは不足状態から、需給均衡、それから供給が需要よりやや多いという局面に転換しつつあるということになっています。農産物の市場自体も着実に拡大と持続的な発展を促進しました。

1978年の中国の消費財小売市場のうち、食料品の小売総額は800億元弱でした。ただし2010年の数字を見ますと、実はもう6兆元を超えています。年間の平均成長率は14パーセントです。

30年間の高度経済成長を経験しまして、中国の都市、農村住民の生活水準は大幅に上昇しました。都市住民と農村住民のエンゲル指数というのは、1978年ではそれぞれ60パーセントと70パーセントでしたが、2010年の数字を見ますと、それぞれ35.7パーセントと41.3パーセントまでに下がりました。すでに、完全に貧困な、あるいは衣食の満ち足りた段階から、全面的に小康社会、つまり、割合ゆとりのある社会、あるいは豊かな段階に発展しています。



### 農産物の生産・消費は安定的に成長

1990-2010都市住民の主要な農産物の消費量

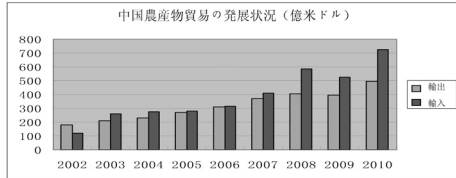
品目	1990	1995	2000	2005	2008	2010
食糧 (キログラム)	130.72	97.00	82.31	76.98		81.5
新鮮な野菜 (キログラム)	138.70	116.47	114.74	118.58	123.15	116.1
食用植物油 (キログラム)	6.40	7.11	8.16	9.25	10.27	8.8
豚肉 (キログラム)	18.46	17.24	16.73	20.15	19.26	20.70
牛肉・羊肉 (キログラム)	3.28	2.44	3.33	3.71	3.44	3.80
家禽 (キログラム)	3.42	3.97	5.44	8.97	8.00	10.2
新鮮な卵 (キログラム)	7.25	9.74	11.21	10.40	10.74	10.0
水産物 (キログラム)	7.69	9.20	11.74	12.55		
フレッシュ・ミルク (キログラム)	4.63	4.62	9.94	17.92	15.19	14.91
果物 (キログラム)	41.11	44.96	57.48	56.69	54.48	56.55
酒 (キログラム)	9.25	9.93	10.01	8.85		7.0

この図表をご覧くださいと分かりますが、中国の住民の生活水準の上昇に伴いまして、一般の中国国民の食料品の消費、特に農産物の消費も根本的に変化しています。すなわち、おいしくおなかいっぱい食べられる状態から、健康かつ安全に食べられる方向に変わってきています。つまり農村を見ても、都市を見ても、主要農産物の一人当たりの消費量は、すでに量的な部分から質的な部分の高い水準へ落ちてきています。

具体的にいいますと、例えば果物、水産物、あるいは乳製品などの消費量は、まだまだ上昇しております。ただ、食糧、肉、お酒類はややゆっくりと下がってきている。ですから、全体でいうと、構造的には質というものが向上しています。それから価格の変動は昔の大幅な変動というものから、最近はどちらかというと落ち着いて安定した変動に変わってきています。

中国の農産物貿易の規模を見ても、ますます拡大しています。2010年の中国の農産物の貿易規模は、すでに1,000億米ドルを突破し、1,220億米ドルに達しています。2005年から2010年の年間の増加率は平均して12パーセントに達していますし、世界第3位の農産物貿易国になっています。

## 農産物の国際貿易の規模は益々拡大している

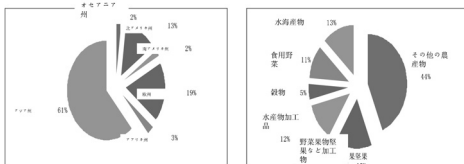


中国の農産物貿易額は2005年の563.8億ドルから2009年の923.3億ドルに増加した。63.8%の増加、年平均の増加率は13.2%である。中国はすでに世界3番目の農産物貿易国になった。

中国はWTO加盟以来、全方位、多段階、幅広い農産物市場の対外開放局面が形成され、農産物輸入の増加は速くなっています。具体的には、貿易だけではなく、実は農業に関する技術の交流、人員の派遣、外国のハイ・レベルの技術者の要請、招へいなども積極的に行いました。

中国の農産物の貿易に関しては、構造的に最適化されつつあります。生産物の構造から見ても、すでに野菜、果物、畜産物、水産物、そういった労働集約型の生産物を代表とする輸出優位製品が形成されています。

## 農産物の貿易構造は引き続き最適化されている



野菜、果物、畜産物、水産物などの労働集約型の生産物を代表とする輸出優位の生産物が形成されている。

そのうちに、米国、ASEAN諸国及び南アメリカの市場シェアは着実に上昇し、西アジアやアフリカなどの新興成長市場は積極的に開拓され、EUの市場シェアはあまり変わらないが、日本と韓国との市場シェアは少し下がってきた。市場構造は最適化された。

一方、中国の農産物の貿易は、基本的にはアジアをメインとした輸出市場の構造を保っていますが、それと同時に、米国、ASEAN、南米の市場シェアも着実に上昇し、西アジア、アフリカなどの新興市場も積極的に開拓しました。ただし、注目しなければならないのは、中国の

農産物貿易の赤字も実は近年拡大しています。特に一部の農産物、いわゆる土地を利用しなければいけない土地集約型農産物の部分に関しては、非常に貿易赤字が拡大しています。

次に、中国国内の農産物市場の状況、流通の仕組み、チャネルについてお話したいと思います。

中国国内の農産物の流通に関しては、農産物卸売市場を中心的かつ主導的な部分として多段階、多様化、多元化した農産物市場システムが急速的に発展してきています。農産物卸売市場は、中国の農産物市場の中心的かつ主要的なチャネルであります。中国には現在、農産物卸売市場は約4,500カ所あります。ただし、数量的には市場も落ち着いてきておりますが、実は少し減少傾向にあります。規模的には大型農産物卸売市場の発展は非常に速いものであります。

また、中国は今、大型農産物卸売市場の数、つまり年間取扱高が1億元以上の卸売市場の数は1,500カ所以上あります。さらに大型市場の増加が毎年60~70カ所のペースで増加しています。それから、数だけではなくて、その市場全体の中の営業コーナー、あるいは営業面積の増加も非常に大きいということです。実際、2002年と比べまして、営業のコーナーの数は36パーセント以上、営業面積は113パーセント、売上高は158パーセント以上、増加をしています。

もっと重要なのは、こういった動きの中で、農産物卸売市場はすでにグループ化という方向に発展しています。例えば、深センにある農産物市場の会社では、すでに広東省、四川省、湖南省、山東省などで、持ち株会社と直営の卸売市場を20社以上持っておりまして、中国最大の農産物卸売市場のグループに成長しています。もう一つは、こういった流通の変化の中で、新型、新しい流通組織、それから流通形態の発展が非常に速いです。

現在でも中国の農産物流通システムにおいては、まだまだ卸売市場を中心とした個人商人、

あるいは仲買人を主体とする、集贸市场とコミュニティーの菜市场を小売の最終段階としているシステムが中心です。

ただ、流通の各段階においては、さまざまな新しい流通組織と形態が表れています。例えば、産地集荷と卸売段階においては、農村の合作社、農産物の基地、農産物の専門的な運送販売会社、あるいは大型仲買人といった新しいかたちの流通形態が急速に発展しています。卸売段階においては、農家とスーパーの連携、農家と企業、あるいは大口外食企業との連携、市場同士の連携など、新しい流通モデルが出てきて、これはすでに新しい大口農産物の卸売形態になりつつあります。

小売段階においては、昔は伝統的なコミュニティーの菜市场、朝市、個人商人などの伝統的なかたちがありましたが、現在では大型GMS、専門店、中小スーパー、標準化菜市场、あるいは農産物専門チェーンストアなどの新しい、多様化した小売形態から一般の市民が購入しています。ですから、中国の農産物流通システムにおいては、新しい形態・方式の発展は、非常に速いです。

もう一つの特徴は、農産物市場の現代化の進行が速くなっています。例えば情報化については、農産物卸売市場の中でも、取引あるいは決済、価格と情報、サービス、市場管理、監督、品質管理とトレーサビリティなどについても、こういった電子手段、技術を用いて行っています。

他方、農産物の物流設備、特にパッケージ、包装、あるいは小売店チェーン、あるいは大型出荷施設の建設に関しても進展は非常に速いです。ただし、一つ説明しなければいけないのは、こういった近代的な施設、あるいは技術を用い

た市場の普及率はまだまだ低いです。

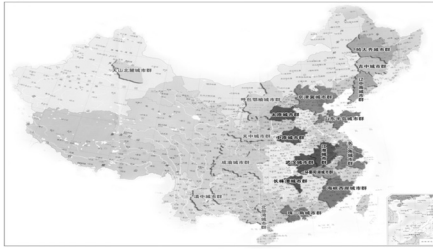
第1に、中国の農産物市場に関して、現在、非常に重要な転換期にあるということについてご説明したいと思います。

この転換期というのは、中国の農産物市場あるいは市場の発展に関して非常に機会もチャンスもありますけれども、もっと可能性として大きいのは、チャレンジ、挑戦といったものが増えるでしょう。1つは、中国政府は、農村、農業、農民という三農問題について、長い間いろいろな政策を打ち出していて、政策的な環境は非常によかったと思います。特に2000年以降は、この三農問題に関して、中国政府は毎年いろいろな政策を出し、非常に強力なサポートをしています。特に象徴的なのは、毎年第一号政策文書というものを政府は出しています。これは全て農業に関する文書になります。それから農産物の市場に関しては、現在12次5カ年計画について計画中です。

第2には、中国の農業生産経営のモデルチェンジが起こっています。例えば、中国の施設農業は非常に今大きく拡大していて、この施設農業が占める農業全体の生産高の割合は、すでに30パーセントを占めています。農業は昔の小農家、一軒一軒の農家の生産モデルから、産業組織という方向に変わってきています。

3番目は、中国の都市化の進行です。中国は今でも都市化の進行が非常に速いのですが、予測では2030年には中国は高度な都市化国家になる見通しです。都市化というのは、農業の発展に関しては大きい市場を提供することもできますけれども、一方は都市と農村の距離、それから生産にかかるコストなども拡大させる可能性があります。

## 将来中国の都市化地区



中国の農産物の生産に関しては、土地、労働力、水などの資源の制約的な部分は非常に厳しいものがあります。

もう一つの特徴は、中国の消費構造の変化です。都市、農村住民の食料品の消費は、すでに栄養かつ健康、安全というものが重視され、消費の選択性が強くなっています。昔は、中国の食品安全問題は、ほとんど貿易の中で起こって指摘されましたけれども、現在は国内問題として消費者から意識され、問題として出されています。中国政府は食肉と野菜、この両面から農産物の生産に関するトレーサビリティというものを、今、実験的にシステムを構築しています。

最後に、中国の農産物の市場に関しては非常に明るい将来があると信じています。ただ、農

産物に関しては、貿易はやはり非常に大きな挑戦、あるいは圧力もあります。これには技術的な問題、貿易条件の悪化、あるいは貿易保護主義などがあります。ですから、農産物の貿易に関しては、さらなる挑戦というものがあると思います。

例えば、技術的な部分で申しますと、具体的には日本のポジティブリストが提示されましたけれども、これは中国も非常に影響を受けました。国内の特に大きな生産基地、例えば山東省などは、これに基づいて国内的にも今は基準を厳しくし、国内的にも国際的にも対応できるように今はなっています。

国際貿易に関しては、中国政府の立場としてはもっと地域的な貿易協力体制の構築を強く認識しています。この地域というのは具体的に申し上げますと、ASEANとの関係、日中韓三国間の関係、さらに言うとTPP、環太平洋地域の関係となります。そういった中で、中国はさらなる農産物の国際競争力を強め、この農産物貿易の拡大を図っていくものと信じています。ただし、中国はまだ発展途上国でありますので、競争力の強化、農産物貿易赤字の局面を短期的には変えられないと思います。

以上です。ありがとうございました。